

台湾との国際定期便就航に向けた取組みについて

1 経緯

- (1) 本県では、これまで、国際チャーター便の運航に力を入れてきたが、世界的なオープンスカイの進展などにより、自治体が航空会社と直接交渉し、国際定期便を誘致する機会が増加している。
- (2) そこで、本県も、これまでの国際チャーター便の実績などから台湾中華航空に対するセールスを強化し、本年4月に、知事から中華航空会長に対し国際定期便の就航を要請した。
- (3) それを受け、9月には会長が来県し、県内の観光地を視察などが実施された。その際、その際、会長から知事に対し、国際定期便に向けた様々な取組みに関する提案がなされた。また、課題（アウトバウンドでの送客等）についても触れられた。
- (4) 現在、提案内容についての交渉を行っているところ。なお、課題解決に向けて取り組んでいるところ。

2 今後の取組み

- (1) 提案内容について交渉中であるが、早期に取りまとめていくこと。
- (2) 課題であるアウトバウンドでの送客対策について、花巻空港を利用した国際線の利便性を広く県民に周知し、アウトバウンド需要を喚起することが必要。また、台湾からのインバウンドについても本県への台湾人観光客は、震災後、大きく減少しており、台湾での一層のプロモーションが必要。
- (3) そのため、岩手県空港利用促進協議会においては、今年度、国際チャーター便の運航拡大を図りつつ、国際定期便の就航に向けた提案を行うなど、国際定期便化を視野に入れ取り組むため、アウトバウンド特別支援事業や国際定期便機運醸成事業などを通じて台湾定期便誘致を進めていくこととしている。
- (4) なお、各市町村においては、台湾との交流、特に東日本大震災津波での義援金等の多大な支援を頂いた経緯などもあることから、今後、台湾との交流人口拡大に向けて取り組んで頂くことなどご検討を頂きたい。

台湾側への乗客増課題

孫・中華航空会長インタビュー



「お互い同じような比率で送客できれば、未来へ安定した期待感を示す孫会長

「お互い同じような比率で送客できれば、未来へ安定した期待感を示す孫会長

「手詰り」は資源が豊か過ぎる

「お互い同じような比率で送客できれば、未来へ安定した期待感を示す孫会長

定期便実現に迫る台湾